

地質情報管理士に合格して

株式会社テクノ長谷 三谷 卓



2019年度の全体合格率26.4%、合格者28名、東北では5名の方が合格し、私もその中の一人になることができました。(先日知り合った飲み友達(?)も合格されました。おめでとうございます。)

さて、本資格を知ったのは十数年前。以前勤めていた会社で情報システム管理者(主に社内PC関係インフラの整備とその管理)を仰せつかり、その業務に邁進していた時でした。

これは将来的に取得しよう!(目標のひとつ)、と意識した資格でした。しかし、その後に職種変更や別業種への転職が重なり、進む方向と気持ちが離れ、いつの間にか意識からも離れ、縁の遠いものとなっていました。

しかし、何かの縁があったのでしょうか。本業種に戻ることとなり、この資格が私の目の前に近づいて来たように感じ、再び取得を意識するようになりました。

現実には、受験資格を満たしていなかったことから、まずは地質調査技士(管理部門)にチャレンジし、晴れて取得後の受験となりました。

周囲から「情報システムに詳しいから簡単に受かる」というようなコメントをもらいましたが、それがプレッシャーになったのは・・・事実です。実際には、そう生易しいものではありませんでした。

出題範囲は、情報システムの基礎～最新の情報技術(ハード・ソフト・セキュリティ等)・GIS・地理座標系やデータベース、さらに電子成果品作成の決まりごとに至るまで多種多様です。ただ「情報システムに詳しい」だけでは合格基準に達しないと感じました。

今回、受験にあたって勉強した分野の方が多かった様に思います。

試験は7月中旬の土曜日、時間は9:30～12:30の3時間です。時間だけを聞くと、「短くて羨ましい」と思う方もいらっしゃるでしょう。

しかしこの3時間で、四肢択一60問・筆記2問(いずれも400字)を解答する必要があります。時間配分も考えなければいけません。解答に迷っている時間はありませんでした。

試験対策として(事前の試験対策として)、私が試験前に行なったことは、以下の4点です。

1. 過去問(四肢択一)3年分を解きながら、内容を理解する。
2. 過去問(筆記)は、解くというよりもキーワードを書き出し、キーワードの説明を書いてみる。
3. 試験対策用テキスト(全部で150ページ近くあります)を、全地連HPから入手し、通勤などの移動中に読む。
4. 電子納品要領を入手し、その概要を把握する。

準備の全てが万全・・・という訳にはいかなかったのですが、なんとか合格できた、と感じております。

小生、それなりの年齢であるため、「今さら」という気持ちがない訳ではありません。しかし、「さあ、これから」という気持ちが強く「やってやろう!」と、「これから」の研鑽を続けるよう感じた次第です。